

日本8社の地図・・・得意分野は、出発点で決まっている

左から順に、何屋さんだったか→何が得意か→どんな人を選ばれているか→持ち続けるときどうか。横に読むと1社が分かり、縦に読むと8社を比べられます。

店に行く前に印刷して持って行ってください。営業の方の説明が、この表のどこの話なのかが分かります。

メーカー 創業年／一言	出発点 もともと何屋さんか	得意なこと 力を入れてきた場所	よく選ばれている人 使い方との相性	維持の傾向 持ち続けるときの目安	知っておきたい影 都合の悪い話も
1937 トヨタ 外さない優等生	織機（布を織る機械）。豊田自動織機の自動車部から独立	ハイブリッドと全方位。HV・PHEV・EV・FCVを同時に進める。つくり方（生産方式）そのものが強み	初めての1台／長く乗る人／家族の送迎など止まると困る使い方／法人	部品も整備先も多く相見積もりが取りやすい。下取りが強い。ただし買うときも高め	2009～10年に北米中心の大規模リコール問題
1948 ホンダ 技術で驚かせたい	オートバイ。いまも二輪で世界最大級	エンジンと空間の使い方。床下に燃料タンクを置く設計で室内が広い。軽（N-BOX）が主力	実用と走りの両方が欲しい人／軽で広さを最優先したい人	販売網は広い。独自の機構は整備先が限られることがある	近年は他社との連携を模索。単独路線の負担が指摘される
1933 日産 新しい動力を先に出す	自動車専門の老舗。ダットサンの流れ	電動化の先行。2010年のリーフは量産EVの先駆け。発電はエンジン、駆動はモーターのe-POWER	静かな走りが好きな人／電動車を試したい人	電動系を扱える工場は増加中。中古は駆動用電池の状態確認が要	経営の混乱と立て直しを何度も経験。技術と経営は分けて見る
1920 マツダ 少数派でも自分の道	コルクの加工会社。三輪トラックを経て乗用車へ	走りの気持ちよさとデザイン。ロータリーエンジン。乗用車ディーゼルを続けている数少ない会社	運転そのものが好きな人／高速・長距離が多い人	ディーゼルは燃料代が安い。短距離ばかりだと不得意な面も	規模が小さく、単独では投資体力に限りがある
1953 スバル 安全と直進安定に全振り	航空機（中島飛行機の流れ）	水平対向エンジン＋四輪駆動。重心が低く安定。運転支援のアイサイト	雪国・山道／高速の移動が多い人／安全装備を最優先する人	燃費は特別良くない。四駆はタイヤ4本の状態をそろえる必要がある	2010年代後半に完成検査の手続き問題が公表された
1920 スズキ 軽く、安く、むだがない	織機。のち二輪、そして軽自動車へ	小さく軽く作る技術。軽と小型車。インド市場で圧倒的な存在	維持費を抑えたい人／街乗り中心／初めての1台	部品が安く、燃料代も抑えやすい。家計への負担が軽い	2010年代に燃費測定の手続き問題。長距離・高速主体には非力なことも
1907 ダイハツ 軽自動車の専門店	発動機の製造。現在はトヨタの完全子会社	軽の作り込み。低い床、大きな開口など毎日の使いやすさの工夫	軽で日常の足をまかないたい人／乗り降りのしやすさが要る人	部品の流通が多く維持しやすい。整備先も多い	2023年に認証手続きの不正が公表され、生産が停止した
1917 三菱 悪路と、電動四駆	造船・重工業。三菱造船がA型を製作	四輪駆動とPHEV。アウトランダーPHEVなど。車から電気を取り出せる機能	アウトドア／雪道／停電時の電源としても使いたい人	中古は割安なことがある。販売店の数は他社より少なめ	リコール隠し（2000年代）と燃費試験の不正（2016年）

🗺️ 会社どうしのつながり（資本の地図）

トヨタを中心とした一群

- ダイハツ（完全子会社）
- スバル（約2割を出資・相互に持ち合い）
- マツダ・スズキ（資本提携）

部品や車の相互供給がある。同じ中身の車が別の名前で売られる背景

日産と三菱

- 日産が三菱自動車の筆頭株主
- 海外メーカーを含む連合の一部

軽自動車を共同で開発してきた経緯がある

独立系

- ホンダ（資本のうえでは独立）
- 分野ごとに他社と提携

近年は連携の模索が続いており、形は変わりうる

💡 この表のいちばんの使いどころ

同じ大きさ・同じ価格帯の車を3台まで絞ったあとに、この表を開いてください。カタログの数字では並ばない差・・・整備先の多さ、下取りの強さ、使い方との相性・・・が、最後のひと押しになります。逆に、この表から選び始めるのは順番が違います。

⚠️ 影の欄を置いた理由

どの会社にも都合の悪い出来事があります。隠せば紹介文としては読みやすくなりますが、何百万円を出す人の役には立ちません。起きたことを知ったうえで、いまの1台を自分の目で見ると。それが目利きです。

出典：各社の公式企業サイト（沿革・会社概要）ほか。創業年は自動車事業の起点となる年の代表値。資本関係は執筆時点のおおまかな形で、比率や枠組みは変わります。細部は公開後に確認します。

車のカリキュラム 図解③ / © 2026 秋元進吾